

VI

成果と課題



Ⅵ. 成果と課題

1. システムの構築・実証実験を振り返って

- ・システムの構築にあたって、様々な運営形態で実施しているフードバンク団体が使用できるシステム改修を前提に行った。取扱量や温度帯、利用団体の種別など、各種パターンが考えられる中で、プレ実証実験で意見集約し、実運用を想定した改修項目を選別し、予算範囲で優先順位を決めて対応した。
- ・実証実験では、事業規模や取扱品が違う5つのフードバンク団体に協力いただき実施したが、それぞれのフードバンク団体の状況により、マッチングシステムで希望する情報開示の範囲・入力必須項目の考え方・追加や改修したい項目の違いなど、細部で意見の相違が見受けられた。運用面でカバーできることとシステムで解決することを確認していく必要がある。
- ・在庫管理システムやスマートフォンを使用しているマッチングシステムなど、すでにシステムを使用しているフードバンク団体や、まったくシステム導入していないフードバンク団体など、アクセシビリティの面での差が大きい。システム操作の習得や入力作業など、システムを動かすための負荷が大きい場合はシステムが定着しないといった実態も垣間見られる。
- ・食品提供事業者・システム管理を行うフードバンク団体・利用団体それぞれが、情報をシステムに入れ込む本システムは、趣旨説明やID・パスワード配付、作業内容の案内など、事前準備に時間がかかる。また、操作や入力を負荷と思わずに対応いただける場合と難しい場合があり、本導入では、周知の時間を十分にとる必要がある。
- ・実際の現場でのイレギュラー対応を、そのタイミングで、どのようにシステムに反映していくか、各事例による対応方法を積みかさねていく必要がある。
- ・賞味期間が短い日配品等の食品流通の対応について、マッチングの時間短縮を行う手段として通知機能を付けたが、日常的に機能するのか、実証実験を引き続き実施する必要がある。
- ・県域を越えての食品の引渡しや、1団体では活用しきれない量の寄贈など、全国レベルで、食品情報を共有する事例がすでに発生している。全国規模でのマッチングシステムの導入は、食品ロス削減や支援活動の充実、情報の共有化による各種課題の解決が期待できる。
- ・今回のマッチングシステムの構築では、重量の集計機能や受領書のカスタマイズ機能が要望としてあげられており、引き続き検討していく。
- ・実運用に向けてセキュリティ強化やバックアップ機能の追加、サーバーの容量など、多くのフードバンク団体が使用する場合を想定し、対応していく必要がある。

2. マッチングシステムの今後の課題

全国のフードバンクが継続的に使用でき、汎用性・廉価性をもったシステムにするには、フードバンクの事業活動の規模の違いによるカスタマイズが必要となる。

実運用までの継続課題として以下の3つがあげられる。3つの課題はそれぞれ連動しており、実証実験を継続し、具体的にシステム利用の対象を絞り込んでいくなかで決定していく必要がある。

【継続課題】

①対象・想定を絞った運用

県域を越えた広範囲の全国版システムを活用する場合や、市町村単位で活用する地域版システムでは、取扱量や利用対象者が違い、情報開示する内容が異なることから求められる機能に違いが生じる。

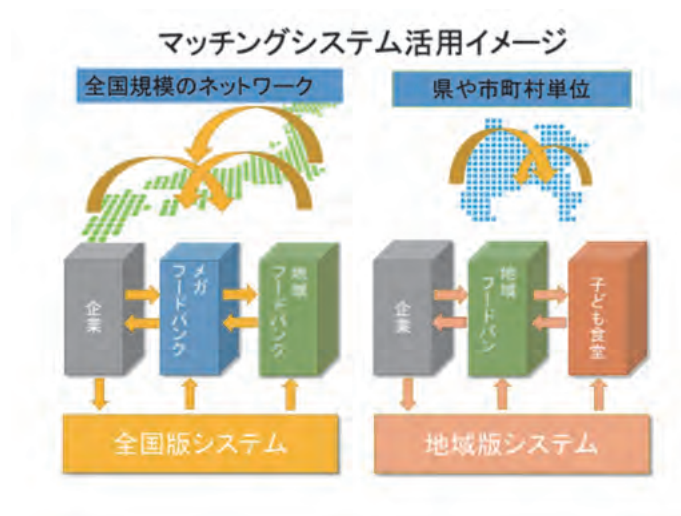
②付加機能のオプション化

どのような規模を対象としシステムを使用するのかを、具体的・段階的に絞り、その対象に対してシステムの分割利用や付加機能の追加など、さらに実証実験を通じて検証する必要がある。

③経費負担

システムを分割利用した場合でも登録団体数や管理するデータ量により、クラウドサービス料などの運用費が増加することもある。規模感をしっかりと想定して対応していく必要がある。経費負担について、共同利用・受益対象者負担・補助金等を活用するなど継続し検討する必要がある。

提供者・受入者・利用者それぞれが望むことを反映したシステム構築を行うことで、食品の有効活用がすすみ、資源が循環する社会づくりを目指す。



VII

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川が
すすめる食支援「ビーバーリンク」



Ⅶ. 特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川がすすめる食支援「ビーバーリンク」

1. ビーバーリンクとは

ビーバーリンクとは、食と地域をつなぐ仕組みで、各支援活動を食のネットワークでつなぎ、食品や場所、情報などをシェアすることで資源を有効活用し、こども食堂やひとり親支援団体などの利用者の活動を中間的に支援する取り組みである。

「ビーバーリンク」の名前の由来は、森に棲むビーバーをイメージした。ビーバーは、小枝など自然にあるものを活用し、新しくダムを作る。川はきれいになり、魚は増え、小動物の食事や憩いの場になるように、人々が集い、力を合わせて、資源が循環し安心して暮らせるまちになるような活動が、さらにつながり広がることを願い「ビーバーリンク」と名付けた。

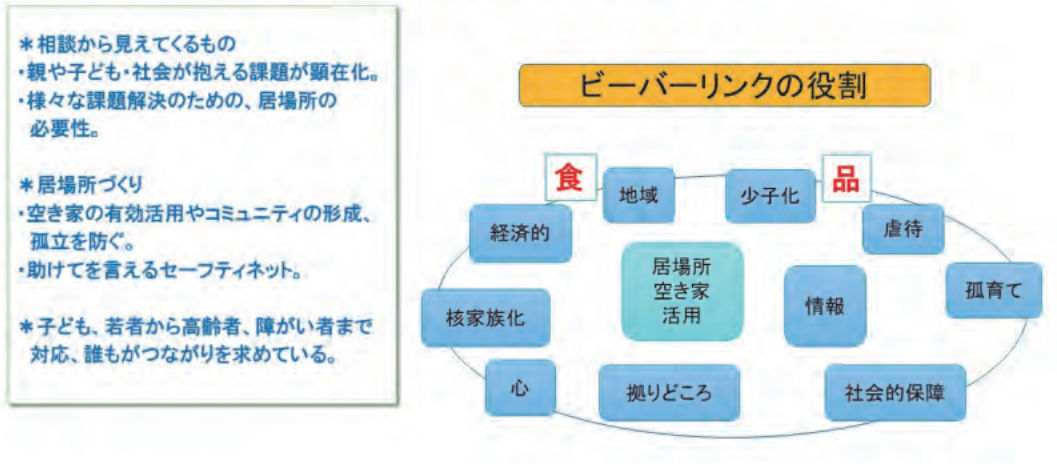
それぞれの支援活動はそのままの主体性を持ち、緩やかにつながることで得られる、ひと・もの・こと・おかね・情報を共有し、活動が持続することを目指している。

セカンドリーグ神奈川では、神奈川県がすすめる協働事業「かながわボランティア活動推進基金 21 協働事業負担金対象事業」として、「食と地域をつなぎ神奈川から貧困をなくす K-Model 構築事業」を 2017 年度からすすめるなかで、神奈川県 6 課と協働し、子どもも、おとなも誰もが気軽に集える「ビーバーリンク」を各地に展開している。

2. 地域の拠点における「食・品」の必要性

当法人に寄せられる相談からも、親や子ども・社会が抱える地域の課題が顕在化している。その一つひとつを解決するには、人々の居場所が必要となる。その居場所は、空き家を活用したコミュニティの形成、支援活動の場、人々が集える場、家庭や学校以外の居場所など、孤立を防ぎ、助けを求められる場にもなる。子ども、若者、高齢者、障がい者、ひとり親、マイノリティの方々、誰もがつながりを求めている今の社会の課題を解決する方法のひとつとして、ビーバーリンク拠点の必要性和、そこに食・生活用品など必需品があることで、もうひとつのセーフティネットになる。

地域における「食・品」の必要性



3. 食品支援活動の課題を軽減する「ビーバーリンク」の効果

ビーバーリンクの効果は、食品・運営・資源の有効活用である。

- ① 提供者からいただいた寄付品は場合によって、個々の活動では使いきれない、必要な食材が足りないなどの課題が発生する。
- ② 同じ場所や地域で連携して開催するそれぞれの支援活動のなかで、ビーバーリンクとしてシェアすることで、食品を有効活用し、無駄なく使いきることができる。
- ③ ビーバーリンクでネットワークすることで、運営力の強化、社会的認知が向上し、活動に賛同する企業や団体の協力で一定の食品確保が可能となる。
- ④ 各団体で負担していた、保管費用、配送費用、人件費等をビーバーリンクで連携することで、食品を有効活用だけでなく、その他の経費も削減することができる。

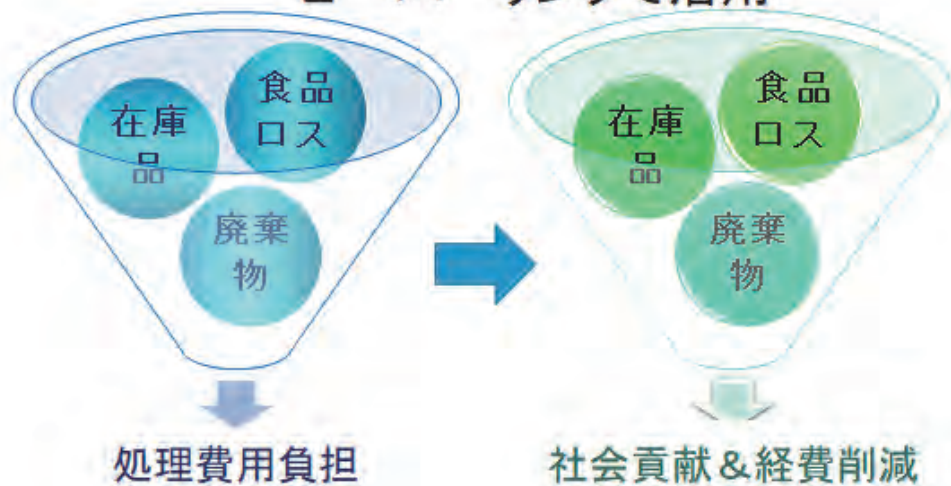
ビーバーリンクの始まりは、セカンドリーグ神奈川がこども食堂の運営を支援することからスタートし、行政や地域フードバンクとリンクすることで、それぞれの動きが他の活動も動かす力となった。提供者の理解を得て、食品提供や運営支援といった形で、ビーバーリンクという集合体と、直接協力体制を開始したことにより、より多くのこども食堂や支援活動に食品提供・運営協力の力が加わり、支援活動が活発になった。

提供者にとっても、そのままでは費用負担になっていた食品ロス、在庫品、廃棄物の課題が、ビーバーリンクの連携により、社会貢献につながり、廃棄コストの削減、利用者の運営支援につながっている。

ビーバーリンク



ビーバーリンクで活用



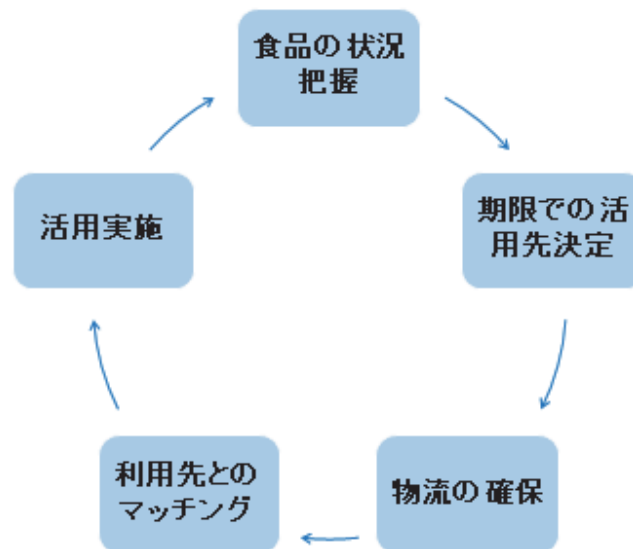
4. 食品コーディネートの流れ

提供者より頂いた寄付品の情報をマッチングし、各ビーバーリンク拠点や支援活動に振り分けを行い、利用者に提供する。

具体的に、提供者より相談を受けてから、どのような課題なのか、それをどうしていきたいのかをうかがい、具体的な行動を提案。それを実施するためのリスクを事前に洗い出し、管理体制を確認して実施する。その後どのような効果があったのか、振り返りを行う。

【食品のマッチングの例】

- ①食品の情報（常温・冷蔵・冷凍等保管状況）を確認
- ②賞味期限から活動状況により活用拠点を決定
- ③引取り、納品、保管など物流を確保
- ④利用者に食品情報を案内し、マッチングを行う
- ⑤食品の納品後、利用者に引渡しを行う



5. 企業の物流課題と解決につながるピーパーリンク

企業が業務を行う上で必須である物流の5つの領域を、社会貢献、環境への配慮をふまえて考えていかなければならない。

【物流の5つの領域】

- ① 調達
 - ② 生産
 - ③ 販売（提供・寄付）
 - ④ 回収（食品ロス・廃棄物）
 - ⑤ リサイクル（有効活用）」
- ③④⑤が企業の課題

- ・販売物流（提供・寄付）では、倉庫からフードバンクへ、そこからこども食堂などの利用者に食品等を届ける課題を、「ビーバーリンク」では物流の相談から活用までを提案し、個別から拠点配送など、ニーズに応じたマッチングを実施する。
- ・回収物流では、消費者（販売店舗等）からの不用品や廃棄物などを回収する課題に対しては、「食品ロス」になる前に、活用方法や利用者とのつなぎ、最終利用まで伴走支援を実施。「廃棄物」となってしまう場合は、引取り先の紹介、廃棄物の再利用の提案や社会的活動のプランニングを実施する。
- ・リサイクル物流では、消費者からの回収物でリサイクル可能なものを再資源化する課題を、企業との連携によりリサイクル品を販売、寄付等により、有効利用の提案や社会的活動につなげる。
- ・結果、その企業の特徴を生かし提案をすることで、最終的に経費削減にもつなげ、C S RやS D G sの面でも社会的価値を上げられる。

6. 支援活動の物流課題と解決につながるビーバーリンク

支援活動の現場でも、物流を前述の5つの領域で見えていくと、「①調達、②生産（保管・品質管理・調理）、③販売（配付・提供）」がこども食堂等の支援活動団体の運営課題となる。

- ・調達物流では、食品や支援物資等を調達する課題を「ビーバーリンク」ではそれぞれの拠点ごとに多種の食品を集め保管管理し、必要なものを必要な分だけ、必要な時に引き渡しを目標に実施している。
- ・生産物流では、食品の管理、保管や引取り、調理の場の確保が課題で、こども食堂などの利用者は、ビーバーリンク拠点にある程度食品の保管ができることにより、活動日に利用数を事前に計画し、必要数に応じた食品を引取り、不足する分を別途調達することが可能となる。調理場での状況などに応じて衛生面への働きかけを当日のボランティアスタッフにも周知してもらうことも説明する。
- ・配付・提供物流では、利用者に食品を配付・提供を安定して実施するために、活動拠点において、運営者が安全に食品を提供することに専念してもらえるよう活動団体同士の情報交換や運営相談にも応じる。

ゆるやかなネットワークと支援体制により、それぞれの独自性を生かした活動継続につながる。

7. ビーバーリンク登録団体 2022年3月現在

- ① ビーバーリンク@武蔵新城 場所：メサ・グランデ（コミュニティカフェ）
めさみーる+（プラス）、てらこみーる、若者カフェここにわ、がんばるママ交流会
- ② ビーバーリンク@桜木町 場所：さくらリビング（青少年支援センター）
さくらリビング（若者サポート活動、学習支援活動、居場所支援活動）
- ③ ビーバーリンク@鶴見 場所：パルシステム神奈川鶴見センター
駒岡丘の上こども食堂、特定非営利活動法人なまむぎこども食堂、ひとり親支援、
子ども食堂すまいる、つるみ元気塾、OMOSHIRO、かえでこども食堂
- ④ ビーバーリンク@ふらっと茅ヶ崎 場所：ふらっとパル茅ヶ崎
ふらっと若者カフェ、茅ヶ崎市民活動サポートセンター、地域のお茶の間研究所
さろんどて、REALこども支援、湘南つばさの家、茅ヶ崎高校定時制、寒川高校、
藤沢市立白浜養護学校、フードバンク厚木
- ⑤ ビーバーリンク@港北 場所：パルシステム神奈川横浜北センター
生活介護事業所支えあいの会、MGMプロジェクト、さくらホームレストラン、
満福うえのまち子ども食堂、大倉山ミエル、海街、フードバンク浜っ子南
- ⑥ ビーバーリンク@金沢 場所：パルシステム神奈川横浜南センター
金沢こども食堂すくすく、よこすかなかながや、となりのねすとらん、
もりのお茶の間、神奈川フードバンクプラス、ポートファミリアくすの樹、
よこすかひとり親サポーターズひまわり
- ⑦ ビーバーリンク@茅ヶ崎南湖 場所：みんなの居場所びすた〜り
サンチャイ・ネパールねばるば、みんなの居場所びすた〜り、若者カフェ、
みなごは食堂、ひとり親支援
- ⑧ ビーバーリンク@戸塚 場所：パルシステム神奈川横浜中センター
NPO 法人おもいやりカンパニー、がんばるママ交流会、ほっこりこども食堂、
フードリンクあやせ、出張ビーバーリンク横浜市大
- ⑨ ビーバーリンク@木月 場所：フードバンクかながわ配送拠点
木月こどもキッチン、まきまきキッチン
- ⑩ ビーバーリンク@平塚 場所：パルシステム神奈川平塚センター
子育ての輪 Lei、NPO 法人報徳食品支援センター、フードバンク湘南、
子育ての輪 LEI、みんなの居場所びすた〜り、幸町こども食堂おいしいね、
地域のお茶の間研究所さろんどて、南湖こども食堂波
- ⑪ ビーバーリンク@相模 場所：パルシステム神奈川相模センター
フードコミュニティ
- ⑫ ビーバーリンク@睦町 場所：パルシステム神奈川鶴見センター
たんぼぼクラブ、わいわい食堂、てのひら食堂、みんなの海山交流学校、
睦母子生活支援施設、ココロにたねまき

- ⑬ ビーバーリンク@大和 場所：パルシステム神奈川大和センター
ことりのお家、長後こども食堂、フードリンクあやせ
- ⑭ ビーバーリンク@麻生 場所：パルシステム神奈川麻生センター
フリースペースたまりば、コミュニティスペースえんくる、
川崎若者就労・生活自立センターブリュッケ、フリースペースえん

8. ビーバーリンク提供・協力団体

- ① 生活協同組合パルシステム神奈川…食品＝青果、常温品等、設備＝冷凍・冷蔵・常温保管倉庫（県内 13 か所）、人員、配送車両
- ② 株式会社野口食品…学校給食等の食材、調味料等
- ③ 公益社団法人フードバンクかながわ…常温品食品全般
- ④ ヴェスティ・フーズ・ジャパン株式会社…冷凍食品、菓子等
- ⑤ 株式会社横浜岡田屋…防災備蓄品等
- ⑥ 株式会社ニッコー…冷凍食品等
- ⑦ 有限会社一蘭…加熱済冷凍肉
- ⑧ 湘南信用金庫…防災備蓄品
- ⑨ 相鉄ホールディングス株式会社…防災備蓄品
- ⑩ 神奈川県くらし安全防災局防災部災害対策課…防災備蓄品
- ⑪ キリンビール株式会社…防災備蓄品
- ⑫ 株式会社ホテル・ニューグランド…アメニティ等
- ⑬ 京浜急行電鉄株式会社…食品、日用雑貨等
- ⑭ 株式会社駿河屋本舗…冷凍食品
- ⑮ 株式会社湘南オフィスサービス…地域の課題と連携、備蓄品の情報提供
- ⑯ 武松商事株式会社…企画運営、企業の紹介、協働企画開催
- ⑰ 株式会社加瀬倉庫…困窮者支援での防災備蓄品活用、倉庫の協力
- ⑱ 横浜信用金庫…団体や企業の課題と連携等
- ⑲ 三井アウトレットパーク 横浜ベイサイド…会場提供、運営協力等
- ⑳ J A 神奈川県中央会…企業の紹介、物流協力等
- ㉑ 石井食品株式会社…冷蔵惣菜品
- ㉒ F O O D L I N E…防災備蓄品、物流協力
- ㉓ 有限会社宮城屋

9. 2021 年度取扱い実績（2022 年 2 月時点）

- ① 冷蔵品 青果：9,000kg（定期毎月 800Kg、不定期）
おから、豆腐類、ハンバーグ：590 kg（1,308 個）
- ② 冷凍品 冷凍肉：1,712kg（3,425 個）
冷凍総菜：4,787 kg（8,399 個）
- ③ 常温品 防災備蓄品等：60,777 kg（121,554 点）
- ④ 生活用品 こども衣料、女性衣料、学用品、ランドセル等：約 600 点
マスク、おむつ等消耗品：250 点

VIII

寄稿



寄稿

国内フードバンク活動の課題とマッチングシステムへの期待

一般社団法人全国フードバンク推進協議会

代表理事 米山廣明

■ 国内フードバンク活動の課題

現在、日本国内では150以上の団体がフードバンク活動を行っており、団体数は直近の5年間でおよそ2倍にまで増加している。一方、国内フードバンクの取扱量は5年前の4,000トンから大きく増加しておらず、現在の取扱量はおよそ5,000トンであると推計されており、団体数に比例して取扱量は増加していないのが現状である。

このように日本国内のフードバンク団体の取扱量が増加しない背景には、インフラ（事務所・倉庫スペース・配送用車両等）、人手、運営費、ノウハウ、認知度等の不足が要因として挙げられる。特に人手不足が深刻で、フードバンク活動は無償で寄付された食品を、無償で配布するという活動であるため、活動そのものから収益が生じない。そのため十分な運営費を確保することが難しく、結果として有給スタッフを雇用することができない団体が多くなっている。

また、昨今のコロナ禍において、フードバンクを取り巻く環境も変化している。特に大きな変化として挙げられるのは、パントリー活動が全国的に拡大したことである。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、通常の子ども食堂の開催が難しくなり、パントリーという形で3密を避けながら食品を配布する子ども食堂が急増している。

このようにフードバンク団体からパントリー活動を行う団体への食品提供件数が増加しているため、結果として食品提供に係る連絡・調整業務も増加している。

フードバンク団体の人員体制が脆弱である一方で調整業務が増加しているため、調整業務に係るマンパワーをどのように確保するかという点は、フードバンク団体の共通課題のひとつになっている。

■ マッチングシステムに関する課題

現在、複数の地方自治体において企業とフードバンクを結びつけるためのマッチングシステムが開発されている事例が見受けられるが、自治体ごとに異なるマッチングシステムが乱立した場合、複数の地域のフードバンク団体に食品を寄贈する企業側としては、寄贈先の地域ごとに異なるシステムを介して寄贈の申し込みを行うことが求められる。この

ように効率化を目指したマッチングシステムが乱立することで、寄贈企業側にとっては逆に食品寄贈が非効率になってしまうことが懸念される。

このような食品寄贈に係る業務の煩雑は、食品企業側の寄贈意欲を阻害してしまうため、全国統一で同じシステムを利用することが望ましい。

■ マッチングシステムへの期待

前述した通り、フードバンク団体の人員体制を拡大することが難しい状況である一方で、連絡調整業務が増加している。このような課題に対応するには、有給スタッフの増員だけでなくフードバンク団体側の連絡調整業務を効率化していく必要もあると考えられる。

マッチングシステムに関わる主体は、寄贈元の食品企業、寄贈を受けるフードバンク団体、寄贈食品の提供先である福祉施設・団体である。マッチングシステムに求められるのは、これら3つの主体全てにとって現状のマッチング方法よりも効率的な仕組みを確立することである。

寄贈元の食品企業においては、寄贈時の申し込みや寄贈後の受領書の回収までをこれまでのメールや電話ではなく、マッチングシステムの中で完結することが望ましい。

また、フードバンクと受益施設・団体の間では、食品企業からの寄贈提案があった際に、希望数量や配送希望日時、配送希望場所等の連絡・調整をマッチングシステムのなかで一括して行えることが望ましい。

受益施設・団体においてマッチングシステムを介して需給調整を行うために必要なICTリテラシーが不足することも想定される。そのためマッチングシステムはできるだけシンプルなシステムにする必要がある。加えて利用する受益施設・団体側に対してマッチングシステムの利用方法に関する研修を行う必要もあると考えられる。

■ 今後の展望

アメリカのフードバンクが取り扱う食品の重量は739万トンであり、日本国内の食品ロス発生量（2019年時点で570万トン）より多くの食品を取り扱っている。

日本国内においてもアメリカのように膨大な食品をフードバンク団体が取り扱えるようになるためには、組織基盤（食品の保管、運搬、配布能力）の向上が必要であるが、同時に大量の食品の寄贈を受入れ、管理し、分配するための効率的なマッチングシステムが必要である。

今後の国内フードバンク団体の取扱量増加に向けて、効率的なマッチングシステムが確立され、全国に普及していくことに期待したい。

寄稿

全国の生協におけるフードバンク運営・支援活動から見えたフードバンク活動の課題
とマッチングシステムへの期待

日本生活協同組合連合会
組織推進本部 社会・地域活動推進部 地域コミュニティグループ
前田昌宏／蔦直宏

1. 生協によるフードバンク運営および支援活動の現状

近年、全国の生協では、食品廃棄物・食品ロス削減に加えて、福祉的課題として困窮者支援の側面からフードバンク運営・フードドライブに取り組むところが増えています。

(1) 生協自らが取り組むフードバンク

生協自らがフードバンク運営に取り組むようになった最初の例は、2012 年設立のみやぎ生協によるコープフードバンクです。現在は東北エリアを事業区域とするコープ東北サンネット事業連合の一部局として活動範囲を東北 6 県に広げ、生協として培った食品メーカー等とのネットワークを活用しながら活動を広げています。その後も、コープさっぽろによるトドックフードバンク（2016 年開始）、おおさかパルコープによるパルコープ子ども食堂フードバンク（2017 年開始）、生活クラブ共済連による生活クラブフードバンク（2019 年開始）など次々に事例が生まれています。

生協が様々な団体と連携・協働しながら団体の設立に参画し、フードバンクに取り組む事例も出てきています。2018 年に設立されたフードバンクかながわは神奈川県下を事業エリアとする複数の生協とその他の協同組合等の複数団体によるコンソーシアム型で設立されました。翌年の 2019 年には、福岡県のエフコープが中心となり、県行政などと食品の提供先となる、県下 4 つのフードバンク団体とともに福岡県フードバンク協議会を設立しました。フードバンクの機能を持つのみではなく、各種のフードバンク団体等の活動が円滑に進むような中間支援の取り組みが広がっています。

(2) フードバンクを支援する取り組みの広がり

2021 年度の日本生協連の調査¹⁾によると、フードバンクの設立に加えて、食材支援、活動場所の支援、人材支援など何らかの取り組みをしている生協は 47 生協にのぼります。特に関連する取り組みとして、フードバンク団体を持たない生協でもできる支援として生協組合員とともにフードドライブに取り組む生協が増えています。2021 年現在で、全国 48 生協が店舗や宅配センターなどの拠点を中心に年間 563 か所で取り組んでいます。

2. 日本生協連フードバンク運営交流会から見たフードバンクの課題

上述の全国の生協のフードバンク・フードドライブ活動の広がりを受け、日本生協連では会員生協・生協系のフードバンク団体を対象としたフードバンク運営交流会を2018年度より実施しています。3回目の開催となる2021年度は、2022年1月26日にオンラインで開催しました。

基調講演はNPO法人セカンドハーベスト・ジャパンの芝田雄司様より「フードセーフティネット構築に向けて」と題し、個人に対して直接対応するフードパントリーのフードセーフティネットとしての重要性についてお話いただきました。

実践報告①では、コープフードバンクの中村礼子様より、約10年の取り組みを受けて、SDGsの広がりなどもあり協力企業・団体が増えていることや今後は本当に困っている人への支援がさらに求められている実情をお話いただきました。実践報告②では、おおさかパルコープの松岡賢司様より、国全体の食品ロス量を考えた際に民間のフードバンクが全てを引き受けるには限界があり、米国の事例を参考に、政府によるフードバンク団体への本格的支援が必要だと問題提起がありました。

参加生協による交流会では主に以下4点の課題が出されました。①冷凍冷蔵庫等の品温管理可能なインフラが不十分：支援を行いたくても物流全体でコールドチェーンが組めない。食材の保存場所に関する課題。②配送時のコスト：大きな配送車が手配できないとコストがかさむ。③行政の補助や法律活用の情報不足。④本当に困っている人にいかに届けるか：遠慮をして取りに来ない方など、どのように支援先とつながるか。

これらの課題を弊会でも交流会などを通じて解決して行きたいと考えます。

3. マッチングシステムに対する期待

上記のとおり、生協自身でのフードバンク運営、各種のフードバンク団体とつながった食支援活動が全国で広がりました。生協が地域でフードバンクに取り組む例では、福岡県フードバンク協議会のように県の予算でマッチングシステムを構築し、県域レベルでのフードバンク業務の効率化・最適化を実現する取り組みが始まっています。全国各地でフードバンク団体の設立が進み、コロナ禍も踏まえて食品提供量が増え、業務自体も増える状況を鑑みるとシステムによって、フードバンク団体、提供先団体、提供元団体のそれぞれが円滑につながり、それぞれの業務をスムーズに実施できるのが望ましい形です。今後考慮すべき点として、各地で同様の仕組みの開発が進むことも予想されますので、それぞれのシステムの連携や団体に応じて必要な機能を取捨選択できカスタマイズできることは将来的に重要になってくると考えます。そのようなことも視野に入れながら、社会全体への広げ方、費用負担の在り方など、幅広い論点をシステムの運用全体も含めたうえで進めることが肝要かと思います。今回のマッチングシステムが多くの団体に活用され、フードバンクの取り組みが発展することを期待しております。

1 日本生活協同組合連合会『2021年度全国の生協の子どもの貧困にかかわる取り組み調査報告書』より。

寄稿

フードバンク活動マッチング支援システムへの期待

株式会社横浜岡田屋 営業本部 商事部 外商特販グループ グループリーダー
長本 孝友紀

横浜岡田屋は、130 余年にわたり地域のご要望や時代の変化に合わせて、様々な「もっと」を追い求めた歴史、これが MORE'S の名前の由来にもなっています。これからも変化を恐れず対応し、これまでの活動にとらわれることなく時流に合わせ常に楽しいことを求め、変化し続けていきます。

弊社の 4 つの事業の一つ、外商事業における防災備蓄品の販売では昨今の防災意識の高まりで、神奈川県内外の企業や学校等からのご注文が増えています。一方防災備蓄品を備えるだけでなく、入れ替え後の社会的活用を望む声が増えてきているなか、セカンドリーグ神奈川様の協力で廃棄することなく提供先と利用先の調整を実施してもらうことができています。

そのなかの一つ、県内全域に店舗を持つ湘南信用金庫様の備蓄品の入れ替えでは、各店舗様と既存備蓄品の受け入れを希望する団体を紹介・調整して頂きました。

湘南信用金庫様の店舗数は東京・神奈川の 48 ヶ所、賞味期限が残っている既存備蓄品はレトルトごはん 2 種 6,608 食（五目御飯 3,260、ひじきごはん 3,348）、おかず 3 種 8,981 食（煮込みハンバーグ 3,010、さばの味噌煮 3,071、筑前煮 2,900）、缶入りパン 3,123 缶の合計 18712 食です。

湘南信用金庫様には、賞味期限が残された備蓄品を提供頂き食品ロスの削減や SDGs の推進など社会的活動に協力を頂きました。

また、全国に拠点を持つ企業からも既存備蓄品を社会的活動に使って欲しいと言う声が多く、今年度 10 月には、東北、関東、関西、九州に拠点を持つ企業から依頼を受けセカンドリーグ神奈川様に全国のフードバンク団体との調整を実施していただきました。

災害は時を選ばないため、納品引取りを同時に行うという条件もあり新規商品の入荷状況、入れ替えのタイミング、引受先との調整など手間のかかる業務です。また利用先とのコミュニケーション、信頼関係の必要性を実感しました。

「マッチングシステム」への期待

1. アカウント管理

- ・横浜岡田屋が納品した企業の防災備蓄品情報（賞味期限、数量、備蓄場所等）を知っておけば、入れ替え時期の把握や支援先への配送スケジュールなども立てやすいため情報共有の仕組みがあると良い。

- ・納品先である、既存備蓄品提供事業者がシステムに登録するとなれば、前段の湘南信用金庫様のように拠点数やアイテム数が多く、入力業務だけでも業務の負担が増えるためお勧めしにくい。情報をこれまでのように提供するだけで、代理入力を行ってもらえると負担は少なくて済みます。

2. 社会貢献と責任

- ・企業が事業を行う上で食品ロスを減らすことは、社会的責任として大切なことです。この仕組みがエネルギーや環境負荷軽減となり、社会貢献として SDGs が推進され、とても期待したい取り組みです。

このシステムにより、防災備蓄品の有効活用が広がることを願います。

* 湘南信用金庫様の防災備蓄品引き取り団体一覧

- ・セカンドリーグ神奈川
- ・神奈川フードバンクプラス（ビーバーリンク@金沢）
- ・金沢こども食堂すくすく（ビーバーリンク@金沢）
- ・よこすかなかながや（ビーバーリンク@金沢）
- ・もりのお茶の間（ビーバーリンク@金沢）
- ・となりのれすとらん（ビーバーリンク@金沢）
- ・食支援ネットかながわ（ビーバーリンク@戸塚）
- ・おもいやりカンパニー（ビーバーリンク@戸塚）
- ・MGM プロジェクト（ビーバーリンク@港北）
- ・まきまきキッチン（ビーバーリンク@木月）
- ・支えあいの会（ビーバーリンク@港北）
- ・ことりのおうち（ビーバーリンク@大和）
- ・つばさの家（ビーバーリンク@ふらっと茅ヶ崎）
- ・びすた〜り（ビーバーリンク@茅ヶ崎南湖）
- ・茅ヶ崎高校（ビーバーリンク@ふらっと茅ヶ崎）
- ・駒岡丘の上こども食堂（ビーバーリンク@鶴見）

以上

Ⅸ

資料

マッチングシステム検討会実施状況



Ⅸ. 資料 マッチングシステム検討会実施状況

*第1回マッチングシステム構築検討会

日 時：2021年8月5日（木） 15：00－16：45

メ ン バ ー：富士通株式会社

ピープル・ソフトウェア株式会社

ソレキア株式会社

公益社団法人フードバンクかながわ

ふうどばんく東北 AGAIN

生活協同組合パルシステム神奈川

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

オブザーバー：農林水産省大臣官房新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 食品ロス削減・リサイクル班

神奈川県 環境農政局環境部 資源循環推進課

神奈川県 政策局いのち・未来戦略本部室 SDGs推進グループ

日本生活協同組合連合会 組織推進本部 社会・地域活動推進部

内 容：事業実施にあたっての留意点確認

プレ実証実験結果報告

マッチングシステム構築課題共有

*第2回マッチングシステム構築検討会

日 時：2021年9月15日（水） 15：00－17：00

メ ン バ ー：富士通株式会社

ピープル・ソフトウェア株式会社

ソレキア株式会社

公益社団法人フードバンクかながわ

ふうどばんく東北 AGAIN

生活協同組合パルシステム神奈川

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

オブザーバー：農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 食品ロス削減・リサイクル班

神奈川県 環境農政局環境部 資源循環推進課

神奈川県 政策局いのち・未来戦略本部室 SDGs推進グループ

日本生活協同組合連合会 組織推進本部 社会・地域活動推進部

内 容：マッチングシステム改修項目の決定

＊第3回マッチングシステム構築検討会

日 時：2021 年 11 月 22 日（月） 10：00－12：00

メ ン バ ー：富士通株式会社

ピープル・ソフトウェア株式会社

ソレキア株式会社

公益社団法人フードバンクかながわ

ふうどばんく東北 AGAIN

生活協同組合パルシステム神奈川

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

オブザーバー：農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 食品ロス削減・リサイクル班

神奈川県 環境農政局環境部 資源循環推進課

神奈川県 政策局いのち・未来戦略本部室 SDG s 推進グループ

日本生活協同組合連合会 組織推進本部 社会・地域活動推進部

内 容：実証実験のすすめ方について

マッチングシステムの今後の展望について

＊第4回マッチングシステム構築検討会

日 時：2022 年 2 月 1 日（月） 15：30－17：00

メ ン バ ー：富士通株式会社

ピープル・ソフトウェア株式会社

ソレキア株式会社

公益社団法人フードバンクかながわ

ふうどばんく東北 AGAIN

生活協同組合パルシステム神奈川

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

オブザーバー：農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 食品ロス削減・リサイクル班

神奈川県 環境農政局環境部 資源循環推進課

神奈川県 政策局いのち・未来戦略本部室 SDG s 推進グループ

横浜市資源循環局 3R 推進課

日本生活協同組合連合会 組織推進本部 社会・地域活動推進部

内 容：マッチングシステム実証実験進捗状況の確認

報告書・成果共有会実施に関して

マッチングシステムの展望・課題について意見交換

私たちの想い

ひとつ、地域ではじめよう。お金優先の考えをやめ。
自然を大切にしよう。農を楽しみ。かけがえのない生命を育み。食を守ろう。
ひとの役に立つことをしよう。からだを動かし、みんなと力を合わせ。
面白いこと、楽しいことをしよう。仲間をつくろう。
女も男も、自分を生き。差別をやめ。
世界の人とつながろう。未来へ向かって、世代をつなごう。
地域へ、そして子どもたちへ。「セカンドリーグ宣言」より

セカンドリーグ神奈川では、地域の課題を受け止め、課題解決の活動の支援を、その状況や変化する社会情勢に臨機応変に対応しています。

セカンドリーグ神奈川がめざすこと



K-Modelとは、持続可能なエシカルな暮らしを創造するしくみです。

- ・必要とする人へ、提供する・・・**1.貧困をなくそう**
- ・提供することで、社会的活動を応援・・・**17.パートナーシップ**
- ・新しい価値観で、再利用を促進・・・**12.つくる責任使う責任**
- ・付加価値をつけて、新たな商品へ・・・**9.産業と技術革新の基盤をつくろう**
- ・利用することで、資源の有効活用・・・**15.陸の豊かさを守ろう**
- ・購入することで、地域活動を応援・・・**11.住み続けられるまちづくりを**



はじめる! つながる! ひろがる!
かながわの新しい縁結び*ハッピーをつなげよう!
NPO法人セカンドリーグ神奈川

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

住 所:横浜市港北区新横浜3-18-16

新横浜交通ビル3F

電 話:045-470-5564

メール:sl-kanagawa@pal.or.jp



Beaver Link®